

生物図鑑

釣り相手の素質

オイカワ(追河)は、これまでの河口堰周辺の魚類調査で、2,000尾以上確認されている純淡水魚である。大きな三角形の尻びれが特徴で、体長は15センチ程度、雑食で関東地方では「ヤマメ」とも呼ばれており、容姿がカウムツやヤマムツなどに似ており、ウグイなどコイ科の中型で細身体形の魚を総称して「ハヤ」とも呼ばれています。

水の汚れに対しては割合強く、流れが緩やかな環境を好みます。利根川は天然分布ですが、アユなどの移植に紛れて各地に広まり利根川より西に分布し、屋久島などでも見られる魚です。冬のオイカワは、唐揚げ、フライなどにしても



河口堰で確認されたオイカワ

美味しく「寒バエ」とも呼ばれ親しまれています。オスは5月から8月にかけて、青緑色にピンクの斑点を付けた婚姻色となり

ます。綺麗な魚は釣り上げ対象としては魅力的ですね。

ちなみにウグイは、カステラや羊羹などを餌にしても食いついてくるほどのどん欲さで昔から釣り相手として、なじみ深い魚です。

イベント案内

河口堰フェスタ2008



2008年8月2(土)
9:30 ~ 15:30
雨天中止、小雨決行

『河口堰フェスタ2008』と銘打って「水の週間」にちなんだ行事を、利根川河口堰管理所構内を一般開放し、地元東庄町にある当機構の東総管理所と合同で開催します。

今回のイベントには、地域との連携の取り組みとして東庄町の観光事業とタイアップして『利根川の恵みがもたらすもの』をテーマにイベントを行います。

水や河口堰施設に関するビデオ上映やパネル写真の展示を行うとともに、皆さんに持ち寄っていただいた水の「水質検査」や簡単な「濾過実験」の体験などや、普段は見ることの出来ない

河口堰の水門を動かす「操作室見学」や、巡視船により利根川に出て「河口堰施設見学」などを企画しております。

他には、楽しく遊べる観水コーナーなどを用意して、皆様のご来場をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

担当者からお願い

当日、皆さんの家の廻り池や川などで採取した水(水道水と井戸水は除かせていただきます)でかまいませんので500mlペットボトルなどに詰めてお持ちください。

※イベントの内容や詳しい情報についてはホームページにて順次掲載していきますのでご覧下さい。



編集後記

7月20日(日)に行われる「第3回香取市民レガッタ」に河口堰チームも2組参加します。

大会には過去何回も出場したことがあるのですが、毎年、転勤などでメンバーが変わってしまっ

ており初心者が多く、現在本番に向けて夕方から猛特訓?を行っております。(これが、なかなかうまくならず…。)

河口堰チームを見かけた方、アドバイス、応援をしてやって下さい。お願いします。

地域を守る潮止堰

河口堰だより

第20号

発行所
独立行政法人 水資源機構
利根川下流総合管理所
利根川河口堰管理所
Tel 0478-88-0477

平成20年 6月

利根川河口堰ホームページアドレス
<http://www.water.go.jp/kanto/tonekako/index.html>

新任のご挨拶

利根川河口堰管理所
所長
塩川 達夫



4月1日付けの人事異動で荒谷前所長の後任として、利根川河口堰管理所長として赴任しました。塩川達夫です。

平素から利根川河口堰管理事業につきまして、格別のご理解、ご協力を賜りありがとうございます。



利根川河口堰の全景

利根川河口堰は、昭和46年4月に管理を開始して以来、「地域を守る潮止堰」として、また、都市用水農業用水を生み出す施設として、その役割を果たすべく職員一丸となって努力して参りました。

これまで河口堰の管理が順調に遂行できたのも、地域の方々、利水者の皆様のご理解、ご協力並びに関係機関の方々のご指導の賜と深く感謝しております。

利根川河口堰が管理を開始してから38年目に入ります。この間、水資源開発公団から独立行政法人水資源機構へ、また、茨城県稲敷市にある霞ヶ浦総合管理所と合併し、利根川下流総

合管理所として生まれかわりました。それを契機として、更なる効率的な業務運営を目指し、職員の意識改革の徹底、意識の向上に努めるとともに、地元の方々のニーズを的確に把握するための情報交換会の開催、河口堰をより理解していただくための積極的な広報活動、地域との交流をより促進するための学習会、イベント等の開催、地域の行事および清掃活動等への参加など積極的に取り組んでまいりました。

今後も職員一丸となって、「地域を守る潮止め堰、利根川河口堰」として積極的に取り組むとともに、安全で確実な施設管理を目指して、一層の努力をしていきたいと考えております。

利根川河口堰は、この「河口堰だより」をはじめとして、堰の管理に関する管理情報のホームページへの掲載等を通じて河口堰に関する情報を積極的に提供すること

で、河口堰の知見を深めていただくとともに、地域の方々との連携の基に、「地域に親しまれる河口堰」として地域の方々にとってより身近な施設となることを願っております。



河口堰だより



利根川河口堰管理所

短信・河口堰

水防訓練に参加しました

平成20年5月29日に水防に関する技術の習得と水防に対する意識の向上を図るため、潮来市の徳島園地(トンボ公園)にて行われた水防訓練に参加しました。

当日は、天候に恵まれず本番さながらの雨が降りしきるなか、国土交通省霞ヶ浦河川事務所、災害協定会社、関係機関、水資源機構、約130名が印旛利根川水防事務組合の指導のもと訓練が行われました。

内容は縄結び、土のう作り、杭ごしらえ、竹とげから始まり、積み土のう工法や折り返し工法、シート張り工法、五徳縫い工法、月の輪工法の実技訓練を行うものでした。



雨のなか真剣な面持ちで

土のう積み程度しか経験のない職員は、目を丸くし、耳をダンボのようにしながら訓練に参加していました。

出水期を前に、連携を深める

6月2日、国土交通省利根川下流河川事務所小見川出張所、千葉県香取地域整備センター小見川出張所、水資源機構利根川河口堰管理所の三者において、平成20年度出水期前の黒部川防災情報について意見交換を行いました。

これは、黒部川の出水時の防災対応について確認するとともに黒部川に関わる各排水機構連携と黒部川水門操作の相互の連携について再確認を行ったものです。



会議の様子

黒部川流域の清掃活動



草むらの中での清掃活動

東総広域水道企業団主催の黒部川流域の清掃作業が、6月6日に行われました。

当日は旭水水道課、

東庄町、東総広域水道企業団、水資源機構の有志40名が集まり、黒部川の堤防に投棄された空き缶、空きビン、ペットボトル、廃材や家庭ゴミ等の分別収集を行いました。

この活動は清掃作業をとおして「黒部川をもっときれいに・大切にしよう」と黒部川を使用する人々全員に感じてもらう事を目的として実施されています。

ホテルの神秘的な光にうっとり

6月6日(金)から8日(日)



ホテルの舞は神秘的

にかけて、茨城県行方市にある霞ヶ浦ふれあいランドのホテル水路様にて行われたホテル見学会の応援に行きました。

利根河口堰管理所と同じ、利根川下流総合管理所の出先事務所の一つでもある玉造管理所の企画したこのホテル見学会は毎年行われており、今年の入場者数は3日間て3316人と大盛況に終わりました。

ホテル水路様の中では、神秘的に光を放つホテルがあちこちに飛びまわり、小さなお子さんから大人まで誰の心にも、癒しを届けてくれたのではないのでしょうか。



ホッ、ホッ、ホテル来い！

利根川下流沿川紀行

平将門伝説及び史跡(その2)

竜禅寺(取手)

延長2年(924年)の創建とされ、釈迦・弥陀・弥勒の三仏を祀る国指定重要文化財で、現存する三仏堂は室町時代後期のものと推測されている。寄棟造りの茅葺屋根は建築史上貴重な建造物と言われている。



国指定重要文化財の三仏堂

桔梗塚(取手)



道沿路にひっそりと

将門の愛妾、桔梗御前の墓。将門が討たれた事を聞き、逃げる途中で殺された所とされている。

竜禅寺に伝わる話として、将門には常に七人の影武者が側にいたが、本物は「こみかめ」が動くことを敵に教えたので、将門はこみかめを斬ら

れて討ち死した。その後、藤原秀郷に口封じのために桔梗御前をも殺した。

また、桔梗御前は、将門との間に三人の子をもうけ、薙刀の名手であったが将門の必勝を三仏堂に祈願しての帰路、この地で藤原秀郷に討たれたとも記されている。

海禅寺(守谷)

海禅寺に伝わる縁起によると、承平元年(931年)に妙見菩薩を崇拝していた将門が創建したもので、行基作の地藏菩薩が安置されている。



将門と7人の石碑

また縁起には、将門は妙見菩薩の加護により、伯父の常陸国香を討ち果たし、遂には関東八州(関東一円におよぶ当時の八か国)を制して、相

馬郡に居城を構え平新皇と称し……とある。この地に境内には、将門と7人の影武者の墓と称する供養塔(石碑)がある。

将門城(守谷城)

将門が守谷に館を構えた跡に、鎌倉時代千葉氏が城を築いたとされる。現在は、土塁が残るばかりだが、二本の松と将門城跡碑が建てられている。

将門の井戸(湖北七つ井戸)

承平年間に、将門が開き、軍用にも使用したと伝えられている。

将門神社

現在、社殿はなく石殿だけが残されている。



住宅の片隅にある将門神社

長禅寺(取手)

将門が承平元年(931年)に祈願寺として創建されたと伝えられ、こんもりと樹木の生い茂った小高い丘の上にある。

親王山延命寺(取手)

ここは将門が信仰していた地藏尊のお告げにより創建されたと伝えられ、山号を親王山と言い、桓武天皇の血を引く家に生まれ、自ら新王(あるいは親王)の位について破れた将門にはふさわしい山号である。境内には駒形塚と呼ばれる塚があり、将門が戦死した時、乗っていた馬を記っていると伝えられている。



監修：利根川愛好会会長
林 敏夫